

# 輸出事業計画

※申請者名：大分県漁業協同組合、品目：養殖ブリ

## 1. 輸出における現状と課題

### 【現状】

・大分県漁業協同組合は、県内沿岸27漁協が合併した単県1漁協であるスケールメリットを最大限活用し、関あじ・関さばやかぼすブリといったブランド化の強化に加え、産地間が連携した大ロットでの出荷や6次産業化（生産・加工・販売）を進めている。また、漁協独自の加工施設（H23竣工）を所持し、養殖ブリフィレ等を国内外へ供給している。輸出については、バイヤー招へいや商談などにより販路開拓を行っている。



### 【課題】

- ・海外マーケットニーズや輸入規制に対応した養殖ブリの生産体制の構築
- ・4月～9月の端境期に輸出可能な原魚の確保
- ・ロインやポーションなどの加工の高度化
- ・近年、急拡大する国内外のフィレ需要による現加工施設の能力不足
- ・フードディフェンスなど輸出先国が求める衛生基準への対応
- ・コロナ禍に伴う巣ごもり需要の取り込み

## 2. 輸出事業計画の取組内容

### 【生産】

- ・輸出に取組む生産者の育成に向けた生産者団体との連携
- ・1年を通じた安定した出荷体制の構築

### 【加工】

- ・次の方針により加工施設を整備し、輸出に対応した産地づくりをすすめる。
  - ①ロイン等の需要拡大に対応した加工の高度化
  - ②オートメーション化による省力化
  - ③フードディフェンスの強化など海外向け高度衛生基準の導入

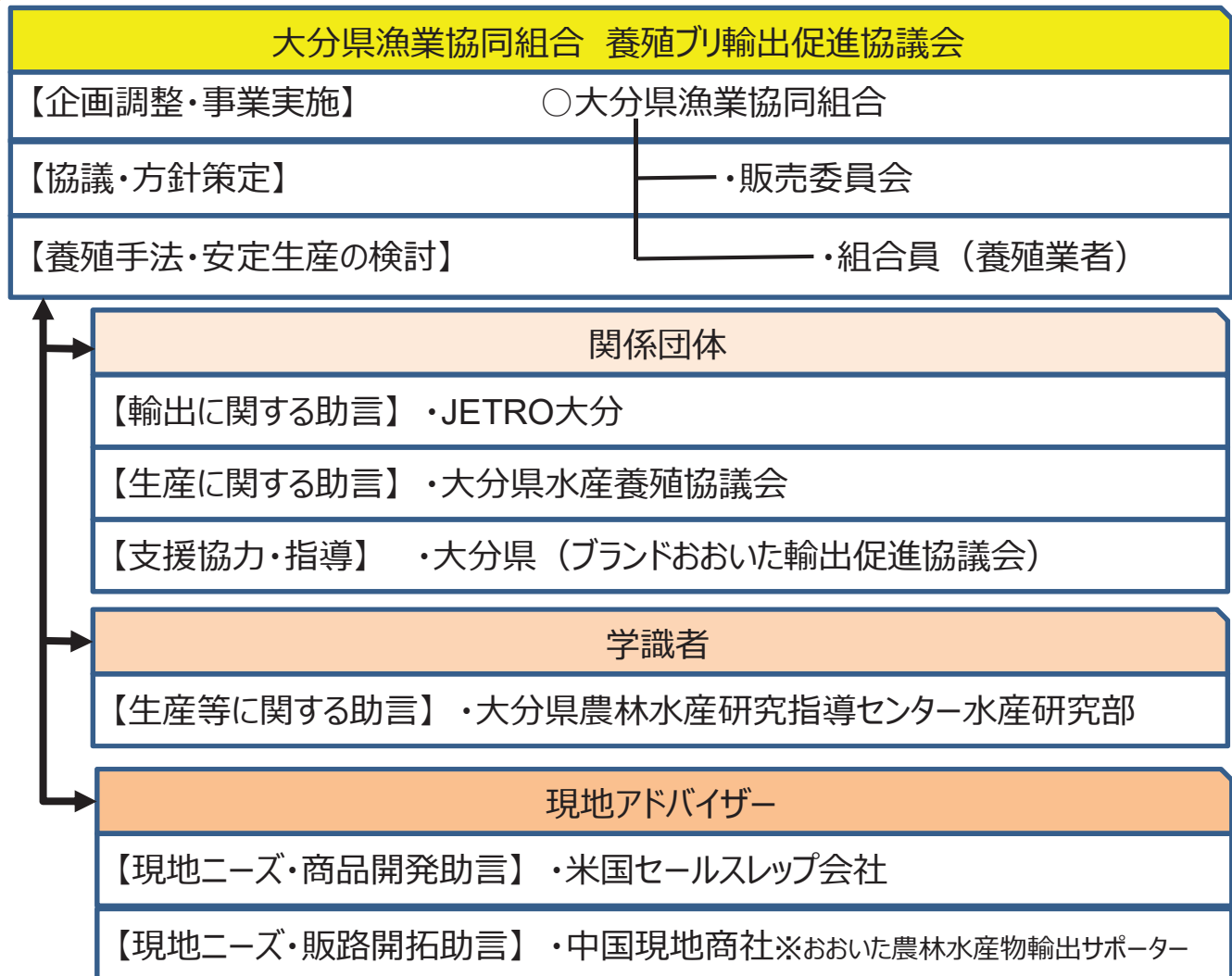
### 【販売】

- ・冷凍加工品開発や新規エリアでの販売活動強化による他産地との差別化

# 輸出事業計画

※申請者名：大分県漁業協同組合、品目：養殖ブリ

## 3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



大分県漁業協同組合が中心となり、生産段階、加工段階、流通段階の各団体、アドバイザー等の意見を集約し、フィードバックを常に受け、PDCAサイクルを回していく。

## 4. 輸出目標額

新加工施設の整備による産地づくりや展示会・バイヤー商談等による販促活動の取組を通じて輸出拡大を目指す。

| 【養殖ブリの輸出目標】 | 令和2年度 | 令和6年度  |
|-------------|-------|--------|
| 輸 出 額       | -     | 114百万円 |
| 輸 出 先 国     | -     | 米国・中国  |